

'22.4.22 第1回 JARI 新モビリティセミナー



中山間地域での暮らしの維持に関する調査研究報告

～ 岡山県備前市吉永町 ～

新モビリティ研究部 國弘 由比

一般財団法人 日本自動車研究所

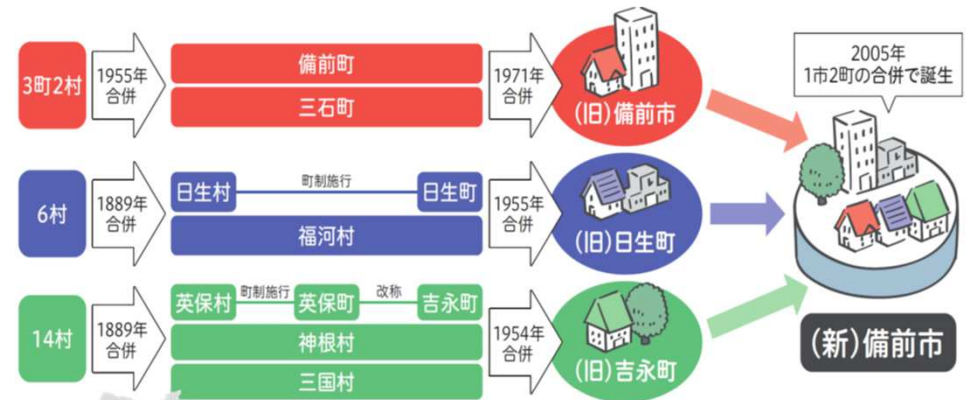
岡山県備前市について

◆2005年の「平成の大合併」により、旧備前市、日生町、吉永町 が合併し、新「備前市」として誕生。

◆岡山県の東南端にあり、兵庫県との県境に位置し、市域の約80%が山地

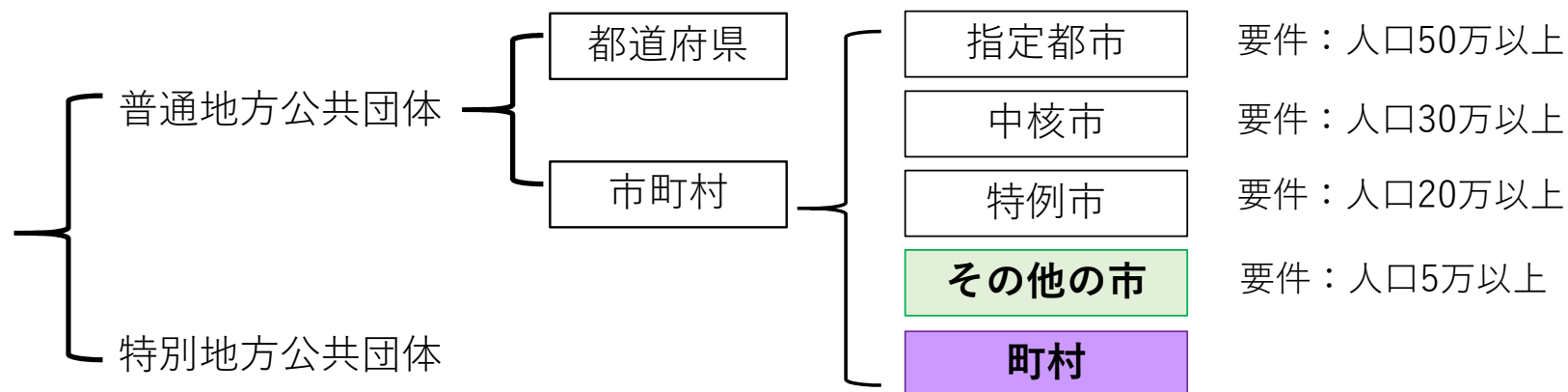
- 南部の日生エリアは、瀬戸内海に面し、大小13の島からなる多島美を形成
- 西部の備前エリアは平野部が多く、備前焼や日本遺産に認定された旧閑谷学校、行政機関や商業施設などがある市の中心部
- 北部は吉備高原を形成する丘陵地で、四方を山で囲まれた中山間地域

⇒ 今回の調査地域の吉永町



他の調査地域との違い

- 高知県仁淀川町、秋田県小坂町、島根県美郷町は、それぞれの町が一つの地方公共団体
 - ⇒ 周辺の市町村との広域連携が必要
- 吉永町は、備前市という地方公共団体のなかにある一つの町
 - ⇒ 市が保有する公共施設や様々な資源の活用
 - ⇒ 生活に必要なサービスを上手く届ける方法の工夫



備前市吉永町の成り立ち

◆三国地区

- 備前市の最北端に位置する地区
- 吉永町加賀美・多麻・都留岐(つるぎ)・笹目
- 標高200~330mに位置

◆神根(こうね)地区

- 吉永地区の南に位置する町
- 吉永町今崎・神根本(こうねほん)・高田・和意谷
- 標高100~240mに位置する地区

◆吉永地区

- 吉永町の平野部分の殆どが吉永駅がある吉永中を中心としたこのエリアに集中
- 吉永町金谷・福満(ふくみつ)・南方・吉永中・三股・岩崎
- 地区内にJR山陽本線吉永駅や吉永病院



備前市吉永町の地区別人口

◆人口の80%が吉永地区に集中、あとの15%が神根地区、三国地区5%

◆地区別人口減少率(令和2年9月)

- 吉永地区 11.2%
- 神根地区 17.1%
- 三国地区 28.5%

	H22	H27	R2	人口減少率
吉永地区	3,843	3,717	3,414	11.2
神根地区	759	744	629	17.1
三国地区	284	249	203	28.5

◆1世帯あたりの平均人数(人口÷世帯数)(令和2年9月)

- 吉永地区 2.29人(2人以上世帯が大半)
- 神根地区 1.98人(ほぼ2人世帯が大半)
- 三国地区 1.75人で独居世帯が既にでてきている状態

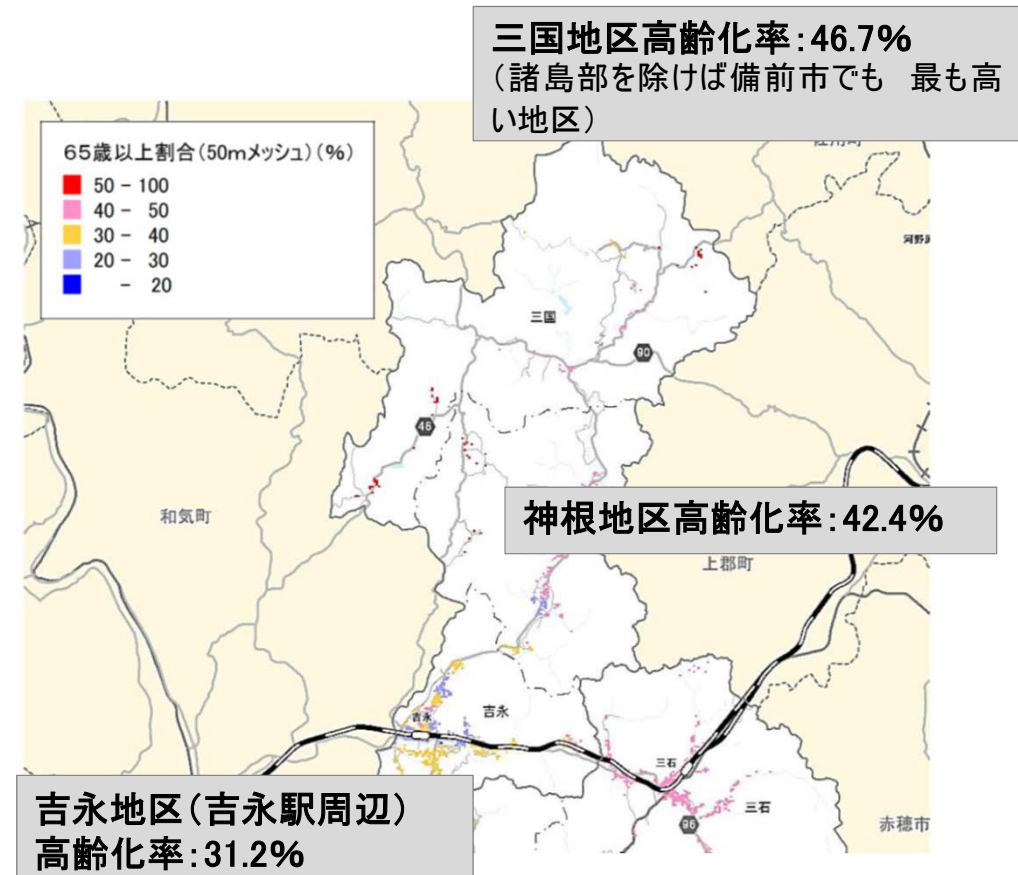
備前市吉永町の年齢構成

◆吉永町の年齢構成(2020年国土技術総合政策研究所データ)

- 0～14 歳(年少人口) :11%
- 15～64歳(生産年齢人口) :54%
- 65 歳以上(老年人口) :35%

◆吉永町の高齢化率(備前市公共交通網形成計画より)

- 吉永地区 31.2%
- 神根地区 42.4%
- 三国地区 46.7%



市営バスの運行状況・収支

◆運行状況

- 八塔寺線：平日：上り7便、下りは6便、休日：上り3便、下り4便
- 三国和意谷線：週3日間のみの運行

◆運行収支

- 八塔寺線
 - 1便当たりの平均乗車人数：1.0人
 - 1日当たりの平均乗車人数：10人
 - 収支率：4.7%
- 三国和意谷線
 - 1便当たりの平均乗車人数：0.4人
 - 1日当たりの平均乗車人数：2人
 - 収支率：2.1%

備前市営バス
・三国和意谷線

備前市営バス
・八塔寺線



・利用者数については平成29年4月1日～平成30年3月末までの運行実績
(出典) 備前市公共交通網形成計画よりJARI編集

その他の公共交通

◆スクールバスの状況

- 吉永小学校、吉永中学校にはスクールバスが運行。
- 民間路線バスが廃止されるまでは通学は路線バスを利用。路線バスの廃止に伴い、路線バスから専用スクールバスに移行。
- スクールバスと備前市営バスは独立した移動手段として運行。
 - ・和意谷吉永小線では三国和意谷線とスクールバスの一部区間が重複
 - ・八塔寺吉永小線では八塔寺線とスクールバスの全区間が重複。

◆タクシー

- 市内にはタクシー事業者は7社、吉永町には吉永タクシーが営業
- 吉永地域の中山間地域にあたる三国地域や神根地域の一部では、5km圏域にタクシー事業所が存在しておらず、他地域と比べてタクシーを利用しづらい環境にある。
- タクシーの利用実態や今後の見通しについて
 - ・10年前と比較すると稼働率も売り上げも大幅にダウン。
 - ・人材の確保とタクシー事業だけでは事業を継続することが難しい。

◆コミュニティバス

- 平成24年から吉永・三石地域から赤穂市中心部まで、備前市、赤穂市、上郡町の3市町で 構成するコミュニティバス「東備西播定住自立圏圏域バス「ていじゅうろう」(備前ルート)」を運行。
- 吉永病院から赤穂市のイオンモール(三石経由)とイオンモールと上郡町(赤穂市)の間で運行。

住民共助によるモビリティサービス

◆吉永町笹目地区「ささめあい号」(交通空白地有償運送)

- 運行主体: 笹目地区(認可地縁団体)
- 運行開始: 平成28年11月
- 運行形態: 予約制のデマンド型、
笹目地区からJR吉永駅周辺およびJR和気駅周辺を結んで運行
- 発足の経緯: 備前市の街中よりも備前市に隣接している和気町(和気郡)に出かけたいということで立ち上がったサービス
- 利用料金: 50円/1km(1回平均15~16km)
- 車両の購入費や車検費用は備前市からの補助
- ささめあい号の車両は、利用者がいない時は青パト(県警の許可済)として笹目地区だけでなく、吉永の街中も含めてパトロール。
- 今後のサービス継続にあたっての課題
 - ・後継者不足(運営1人、ドライバー1人)
 - ・ドライバーは全くの無償



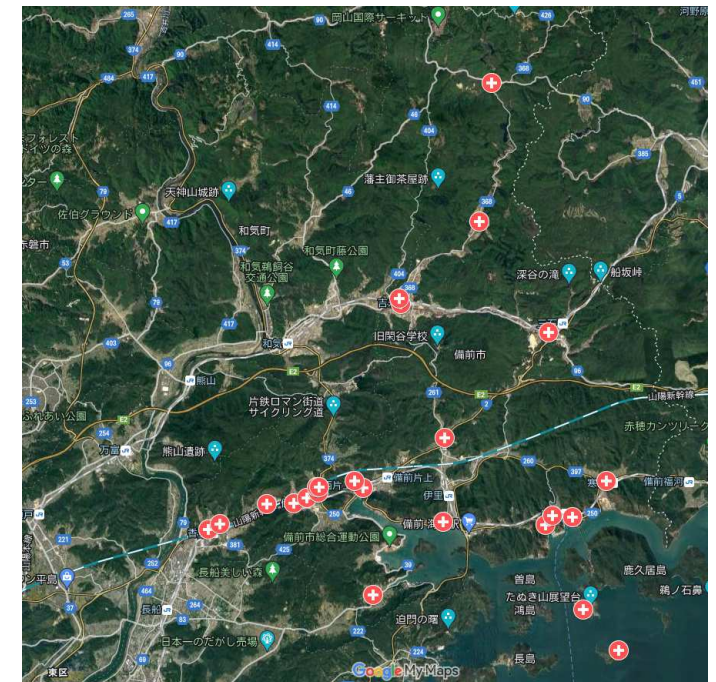
医療の現状

◆備前市の医療について

- 一般診療所(22)、病院(4)、歯科(17)、そのうち吉永町には吉永病院を始め、診療所やクリニック(3)、歯科(2)がある。
- 後継者がいない診療所が多く、これらの診療所が閉院した場合は、備前市の3つの公立病院でカバーすることになる(この3病院も、同じ診療科があるものについては機能の分担や病床の削減など調整の要望が国からきている)。

◆吉永地区の訪問診療の現状

- 木曜日の午後に3時間～4時間をかけて実施。
- 診療時間は一人10分程度
- 移動距離は遠くても10km圏内、移動時間は長くて20分程度だが、全行程では、平均で80～100km程度の移動
- 訪問診療の課題：
医師や看護師の移動距離が長いとサービスを維持することが難しい。拠点に集まって暮すことで効率化や質の高いサービスを提供することは可能だが、代々の田畑を放置することに抵抗感がある人も多い。



介護福祉サービスの現状

◆介護資源について

- 備前市内の介護関連施設は、デイサービス9件、介護施設14件、福祉施設31件。
- 施設系サービスは余裕があるため、ほぼ待機なく入所することができる。
- 吉永地域では、退院後の在宅復帰率が低い傾向。

◆居宅介護サービスの利用状況

- 介護の状態が軽い段階で介護施設に入ることができるので、在宅療養に必須の居宅療養管理指導の利用が少ない傾向にある。
- 吉永北部の訪問系サービスは、不採算のため新規参入が困難であり、社会福祉協議会等も人材不足により継続困難な状況



施設系サービスについては軽度の状態から入所が可能、一方で、居宅介護サービスについては、人手の確保、移動距離の長さによる負担が大きいことなどから、採算がとりにくい傾向。
そのため、吉永地域では、退院をしても自宅でのリハビリや介護が難しいことから、在宅復帰率が低い傾向にあると思われる。

生活支援サービスの現状

◆ 移動販売車(とくし丸)

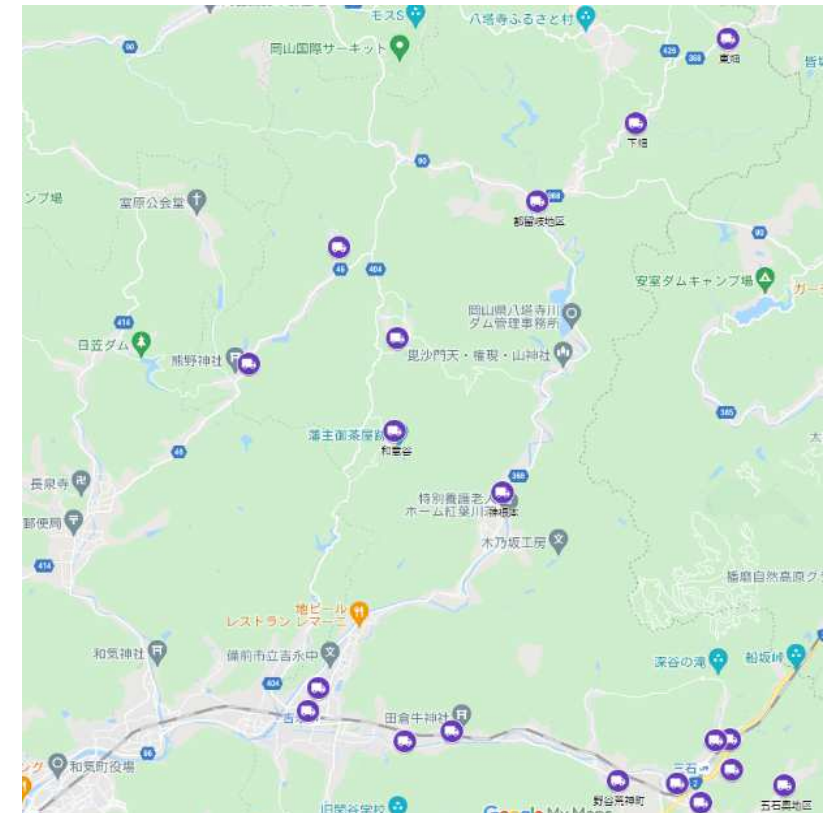
- 高齢化、過疎化の著しい地域へ食料品、日用品を配達、併せて高齢者の安否確認を実施
 - 市が燃料代等経費の一部を補助
- 

◆配食サービス

- 高齢者向けのシニア食や介護食、医療食等の配食サービス
- 利用料金： 1食あたり税込400円（一律）
- 配達及び容器回収を兼ねた見守りを市が事業者へ委託。

◆ 外出支援策「愛♡乗り生活交通チケット」

- 対象: 年齢70歳以上で運転免許証を所持していない、
運転免許証を返納している方
身体障害者・精神障害者の方
妊婦・出産後3ヶ月までの方
- 交付金額: チケットは1枚100円、1ヶ月あたり16枚
(年19,200円)



移動販売車とくし丸の立ち寄りポイント

中山間地域の暮らしの継続に向けて

資源を最大限に活用して、サービスを届ける・・

◆人やモノ、サービスの集約

- 備前市の拠点病院の一つである吉永病院やJR吉永駅を吉永町の中山間地を支える拠点として、人やモノ、サービスを集約
- 吉永駅や吉永郵便局周辺を配送システムとして拠点化

◆様々な交通資源の活用(貨客混載)

- 神根・三国地区へ郵便物を配達する郵便車両
- 市営バスやスクールバスも活用

◆拠点から先の各家庭への配送

- 地域の見守りを兼ねた住民共助による配送
- 移動サービス車両の活用
- 配送料の徴収

地域の暮らしやサービスを支えていくためには
モビリティはとても重要



どうもありがとうございました。